

Talents Tokyo

タレンツ・トーキョー

2025 Pre-event

タレンツ・トーキョー修了生による

特別上映会



ルノワール

早川千絵 監督

上映後トーク:

早川千絵 監督 × 是枝裕和 監督(ゲスト)

配給会社:ハピネットファントム・スタジオ



ピアス 刺心

ネリシア・ロウ 監督

上映後トーク:ネリシア・ロウ 監督

配給会社:インターフィルム



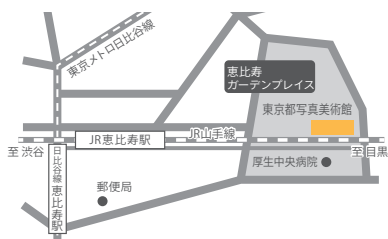
Cu Li Never Cries

ファム・ゴック・ラン 監督

上映後トーク:

ファム・ゴック・ラン 監督

Square Eyes (海外セールス)



2025年11月8日(土)・9日(日) 東京都写真美術館 1Fホール

最寄駅:JR 恵比寿駅、東京メトロ日比谷線 恵比寿駅・JR恵比寿駅東口より徒歩約7分・東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分

入場料:無料(予約制)

◆お申し込み順、定員数に達し次第終了となります

◆全席指定 ◆各回定員入替制

◆要事前予約

入場には申込が必要です

チケット予約は
こちらから



11/8
Sat



早川千絵 監督
写真：西山勲

10:20-12:22 ルノワール (122min)
12:25-12:55 上映後トーク 早川監督 × 是枝監督 (ゲスト)
13:35-15:07 Cu Li Never Cries (92min)
15:55-17:41 ピアス 刺心 (106min)

早川千絵 監督 タレンツ・トーキョー2014修了生

短編『ナイアガラ』が2014年第67回カンヌ国際映画祭シネフォンダンソン部門入選、びあフィルムフェスティバルグランプリ受賞。2018年、是枝裕和監督総合監修のオムニバス映画『十年 Ten Years Japan』の一篇の監督・脚本を手がける。その短編から物語を再構築した初の長編映画『PLAN 75』(22)で、第75回カンヌ国際映画祭カメラドール(新人監督)特別賞を受賞。本作は第78回カンヌ国際映画祭コンペティション部門に選出され話題を呼んだ。



是枝裕和 監督
写真：瀧本幹也

是枝裕和 監督 (ゲスト)

ドキュメンタリー出身の日本を代表する映画監督、脚本家。1995年の『幻の光』で長編映画監督としてデビューし、以降、家族の絆や日常のささやかな出来事を温かくも鋭い視点で描く作品を数多く発表している。代表作に『そして父になる』(第66回カンヌ国際映画祭 審査員賞)『万引き家族』(第71回カンヌ国際映画祭 パルム・ドール(最高賞))『怪物』(第76回カンヌ国際映画祭 脚本賞)

上映後トーク司会：市山尚三

(タレンツ・トーキョー実行委員長／東京国際映画祭プログラミング・ディレクター)

11/9
Sun



ネリシア・ロウ 監督

10:20-12:06 ピアス 刺心 (106min)
12:10-12:35 上映後トーク ネリシア・ロウ 監督
13:15-14:47 Cu Li Never Cries (92min)
14:50-15:15 上映後トーク ファム・ゴック・ラン 監督
15:45-17:47 ルノワール (122min)

ネリシア・ロウ 監督 タレンツ・トーキョー2020修了生

シンガポールで生まれ育ち、5年間にわたりシンガポールのフェンシング国家代表として活躍する。2010年に現役を引退し、子どもの頃からの夢だった映画作りの道へ進む。2018年、コロンビア大学で映画監督専攻のMFA(芸術学修士)を取得。短編2作目の『Freeze』は、2016年のクレムロン＝フェラン国際短編映画祭でプレミアされ、その後、金馬獎(台湾)、釜山国際短編映画祭(韓国)、ブリュッセル国際短編映画祭(ベルギー)、オーデンセ国際映画祭(デンマーク)、シンガポール国際映画祭をはじめ世界70以上の映画祭で上映された。



ファム・ゴック・ラン 監督

ファム・ゴック・ラン 監督 タレンツ・トーキョー2017修了生

ベトナムのハノイ生まれ。都市計画を専攻したのち、独学で映画制作を学ぶ。短編作品に『The Story of Ones』(ヴィジョン・デュ・レール2012)、『Another City』(ベルリン国際映画祭66回)、『Blessed Land』(同69回)、『The Unseen River』(ロカルノ国際映画祭74回、サンダンス映画祭2021)などがある。『Cu Li Never Cries』は長編初監督作となる。

上映後トーク司会：市山尚三

(タレンツ・トーキョー実行委員長／東京国際映画祭プログラミング・ディレクター)

上映作品

ルノワール ー全国公開中ー

2025 / 122min

第78回カンヌ国際映画祭コンペティション部門出品

不完全な大人たちの孤独や痛みに触れる、11歳のひと夏。うれしい、楽しい、寂しい、怖い。そして、“哀しい”を知り、少女は大人になる。

© 2025「RENOIR」製作委員会 / International Partners

配給：ハピネットファントム・スタジオ

脚本・監督：早川千絵

製作年：2025年／製作国：日本・フランスほか合作／上映時間：122分／スクリーンサイズ：ヨーロッパアンビスタ／音声：5.1ch／言語：日本語、英語／英題：RENOIR／映倫：G

ピアス 刺心 ージャパンプレミアー (日本初上映)

2024 / 106min

第58回カルロヴィ・ヴァリ映画祭 最優秀監督賞受賞

フェンシングの試合中に対戦相手を刺殺し、少年刑務所から7年ぶりに出所した兄ジーハンと、疎遠になっていた弟ジョージエが再会する。「事故だ」という兄の言葉を信じて、ジーハンを警戒する母の目を盗み、兄からフェンシングの指導を受ける。ジョージエ自身も気づかなかった友人への甘酸っぱい想いを後押ししてもらい、ふたりは兄弟の時間を取り戻していく。しかし、幼き日の溺れた記憶がよぎる。あの時、なぜ兄はすぐに手を差し伸べなかったのか。疑念が深まるなか、悪夢のような事件が起こる。

脚本・監督：ネリシア・ロウ(劉慧伶)

製作年：2024年／製作国：シンガポール、台湾、ポーランド／上映時間：106分／スクリーンサイズ：1.66:1 ビスタ／音声：5.1ch／言語：中国語／英題：Pierce／DCP © Potocol_Flash Forward Entertainment_Harine Films_Elysium Ciné
配給：インターフィルム

Cu Li Never Cries ージャパンプレミアー (日本初上映)

2024 / 92min

第74回ベルリン映画祭 最優秀新人作品賞受賞

ある日、主人公のもとに、長らく疎遠だった元夫の訃報が届く。彼の遺灰とともに、一匹のスローロリスが託される。一方、姪は結婚を控えながらも、自らの未来に迷いを抱えている。ベトナムの歴史が交錯し、過去と現在の記憶をめぐって描かれる家族の物語。

監督：ファム・ゴック・ラン

脚本：ファム・ゴック・ラン・ギエム・クイン・チャン

製作年：2024年／製作国：ベトナム、シンガポール、フランス、フィリピン、ノルウェー／上映時間：92分／スクリーンサイズ：1.66:1 ビスタ／映像：Black and White／音声：Sound Mix／言語：ベトナム語／英題：Cu Li Never Cries

©Cadence Studio and An Nam Productions

海外セールス：Square Eyes

Talents Tokyo / タレンツ・トーキョー

ベルリン国際映画祭の一環として開催されている「ベルリナーレ・タレンツ」という人材育成プログラムの海外展開「タレンツ・インターナショナル」におけるアジア版で、現在「タレンツ・インターナショナル」は、東京・サエポ・ペイルート・ダーバン・グアダハラ・プエノスアイレス・リオの7都市で実施されています。

東京では、「タレンツ・トーキョー」として東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、タレンツ・トーキョー実行委員会との共催で、2010年から実施、映像分野の「次世代の巨匠」になる可能性を秘めた「アジアの才能(=Talents, タレンツ)」を育成することを目的としています。修了生たちは、ベルリン、カンヌ、ベネチア等の国際映画祭で受賞・ノミネートを受けており、世界を舞台に活躍するアジアの映画人を多数輩出しています。

HPIは
こちらから

